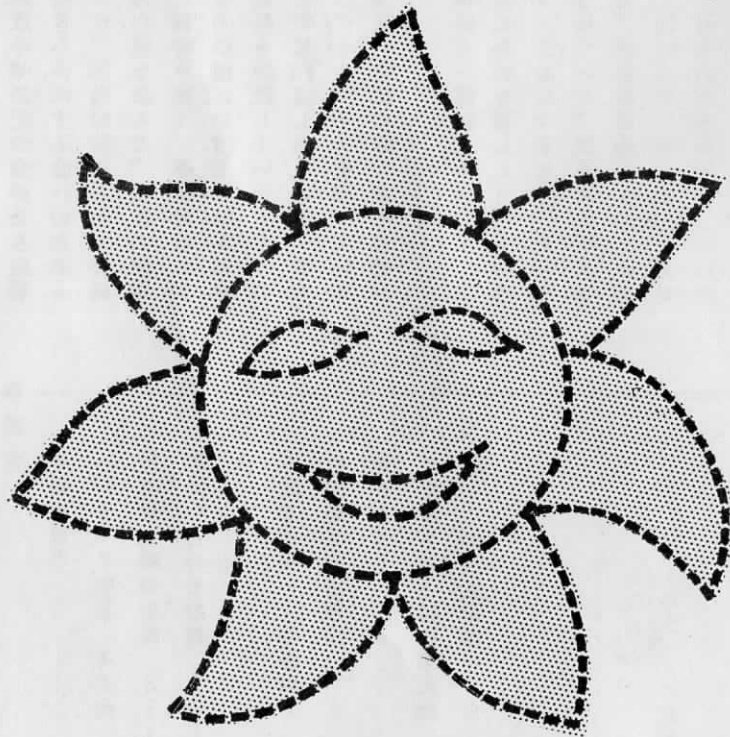


リベルテール

1月号



The Symbol of HAPOTOC
FAMILY INTERNATIONAL
(Copied)

Libertaire Vol, IX. No. 2

無政府主義誌

昭和45年9月4日第3種郵便物認可
1978年1月15日発行第96号

リベルテール定価二〇〇円
年間購読料 二〇〇〇円 (郵便料共)

一九七八年「リベルテール」の現状

年が明けて既に去年の事になるが、十一月の時点でリベルテールの在り方につき、批判した公開の印刷物と私信の形で一文を受取った。ケンナブ君は状況主義者でサロンに出席し意見を述べた際の印象から、批判を展開していた。もともと反省する指摘もあったが、さりとて当方で言訳けをしなければという程ではなく、原文の回答を受けて初めて回答した。私信の形での一読者の発言は、編集部向けと同人を名差した批判であったが、丁度カフカ作の「城」でも読む趣向があつてそれなりに興味深く、さように理解されているのかと感じはしたが、リベルテールの会自体はそれ程ミステリめいた不可視の会ではなく、誰でも表から裏までスイスイ通り抜けつきく融通無碍なのである。言うまでもなく、リベルテール誌と会の在り方は、主催者三浦さんの意向が大きく働いている。その人格の及ぼす範囲はキリスト者としての寛容(トランス)のうちにあると思う。キリスト教的なものとはアナーキズムの倫理がどのように整合するかは当人の内面生活の問題であつて、それが会の存立に支障しない限り、また当人が小誌の継続を表明し、働く限り、最初に協力を約束し、初心に帰り、私は共働したい

と思う。

編集について 各編集同人の推する原稿は、推した人の責任において掲載し、それへの反論は同人の意向を確しめて再び載せている。私信は会宛と主催者宛があるが、一応受取った人の意向を確認し、公表は発信者に不利にならないよう、文意の損われないよう配慮している。従つて発信者はペンネームだろうと本名だろうと少くともリベルテール誌へ宛てられたものでは、ご本人の選択があつたと判断している。

会については未だに理解が十分でないようだ。「リベルテール」には方向性がない「無」力をいくら集めても有る力にならない。話し合うだけでは、意見が相殺されて、何も残らない「等」残念だけれどどうした意見はリベルテールの合意を無視するものだ。「リベルテール」の読者諸兄姉は、各自のアナーキーを追求するかたわら、その思想、経験をリベルテールに発表して、同志的連帯を養われるよう切望する」と記したのは七十六年十二月号であつた。状況は外でこそ流動しているがこちらでは変わらない。それが問題だろう。本年五月は小誌の100号記念になる。現状を明視したご意見を寄せて下さい。

(文責 はしもと)

- リベルテール
- 1978年1月15日発行 Vol., IX No. 2
- 編集兼発行者 三浦精一
- 発行所 東京都練馬区大泉学園町2190
萩原晋太郎方 リベルテールの会

一月二四日箱根・大平台・林泉寺で表記の会があり出席した。「大逆事件の真相を明きらかにする会」の合流もあつて、41名参集し盛会だつた。和尚67回忌とかで読経で始まり(午後3時半)警若心経を読んだ。現在の住職の話では当時あの当りは30戸程の戸数で、愚童師は住民に尊敬され、境内の栗の実を子供達に分けるのは常に平等であつたと言ふ。師が爆裂弾を隠匿していたと言ふのは実は箱根登山鉄道が大正七年に開通したもので、明治四四年頃は平林寺で工用のダイナマイトを預つていたのがそれに当るとのことだつた。住職の話の後で女性が筑前琵琶を弾じた。

△若き敦盛Vと題した平家物語の一節は、櫛々として、明治の社会主義者達が集会の折に余興を榮しんだ様子が思ひ残る。今ならさしづめフォークかロックといいたい所。師の刻んだ仏像が二体展示されていた。民家で大切に持仏として護持されていたのだ。林泉寺は曲りくねつた坂の中程にある。周囲を旅館で固められ、街の窮屈な墓地と同じだ。師の墓石は高いしゆるの木を背景にして自然石の小さなものでソトバが五六本、花と線香が添えてあり、ざわめきはなかつた。私は斜め向いに坐り煙草を一

(10Pへつづく)

巻頭言

年頭に思う	三浦精一
ハボトック宣言 その他	若山健二
渡辺政太郎の生涯	加藤善夫
高尾平公のその後	萩原晋太郎
一波万波	
不老者の集い/杉藤君/	
中国無政府主義論 (10)	志麻達夫
海外だより	
アナキズムと獄中者組織	若山健二
野火(江藤編)	

天子、金持、大地主、大商社、人の血を吸うグニがいる

愚童

年頭に思う

三浦精一

僕等が学んだ経済学は人間の欲望から説き起して来た。欲望充足の手段として貨幣がつくられたと教えた。だが歴史は貨幣が権力者の徴税の手段としてつくられたと教える。今貨幣は明白に交換の手段にもなっている。しかしその貨幣は利息によつて、そして投機によつて別の貨幣を生む生き物のように扱われるのが常識だ。政府の奨励で赤字輸出をしたのに円高になつて首がまわらない。円高ドル安の投機で巨万の富を積む者もいる。複雑な経済機構は庶民の手の届かない所で動いていて、インフレ、不況、失業、貧困に泣かねばならないのは庶民の方だ。貨幣の必要性を身にしみて考えるからこそ身を粉にして働いたのに、インフレ、失業ということになるのは何故だ。投機者、買占め、高利貸、汚職者の所に貨幣が流れるのは何故だ。幼稚な疑問だと笑つて済まされる問題ではない。一体誰がこの問題に答えてくれたらどうか。アダム・スミスは二百年前に私利の追及という自由が、国民的な繁栄につながると説いたことは大門君も言っている。しかしこれは強い者、富を積んだ者が、弱い者、無産者を抑圧し支配する自由経済秩序だつた。富が支配権力となる。「金さえあれば」という言葉は「金力=権力=神」という等式を含んでいる。これらは支配せんとする者の必需品だ。

アダム・スミスの私利追及の構造を分析しようとした唯物論者マルクスは、予定調和というスミスの信仰を否定して革命=プロレタリアが国家権力を握る革命を考えた。だがこの考えはユダヤ教の最後の審判者=神の座にプロレタリアを置いただけのものだ。権力信仰者が無神論者たり得るか。権力も金力もこの地上の神ではないか。唯物論者必ずしも無神論者ではない。権力や金力によつて革命ができるのだつたら、シヤカは王宮を出て出家して乞食坊主集団をつくらなくてもよかつただろうし、キリストも権力神を愛の神にして十字架を負はないでも良かつたろう。そしてバクーニンも「神が現れれば人間が消える」と言わないでも良かつたのだ。プロレタリアは権力主義者の消耗品にされるだけだ。

貨幣が真に交換手段であるとしたら、単なる交換手段たらしめねばならないという素朴な考え方が、どうしても通用せず、それが蓄積の手段となり、支配の手段となり、神ともなるところに社会の病根がある。出来もしないことを出来るように言い、一寸した改良を革命のように誇張する所に権力信仰者の虚偽がある。牧師の父に叛いて唯物論者、無神論者、無政府主義者になつたエリゼ・ルクリュは言つた。「私が独立独歩で働くとすれば、それは自分を与えるためだ。私が強壯でありたいと願うとすれば、それは充分に至誠をつくしたからだ。私はすべてを他から受けたから、すべてを彼等に致したいと思う」。

を行うとの決意を表明している。渡辺は母親が病気のため、残留することになるが、原子と深尾の二人は三月末、東京に向けて出発した。

四月上旬、準備をととのえた二人は平民社を立ち、甲信伝道行商と称し八王子方面に向うが、四日ほどで官憲の弾圧に会い計画は頓座する。平民社に帰った二人はしばらく北海道に渡り、「平民農場」と名づけた開拓事業を始めるが、これも三年足らずで失敗に終わっている。

原子は平民社滞在中、「直言」に同志渡辺の活動を紹介する「平民床」と題した一文を寄せている。

「富士山の南、鈴川駅から二里の天間という田舎に、仙人の様な床屋がある。『労働者神聖也』の扁額を看板にして、労働者の為めなら八銭の斬髪料を五銭にまけて、新聞を呉れて本を貸して、おまけに熱誠な談話をして聴かせる。青年会の演説があれば、彼は雄弁なる弁士として滔々経済を論じ出すのである。富士製紙会社のアーク燈が輝きそむる夕まぐれ、裾野の道をしよう遙した人は、しばしば彼が『社会主義の檄』を配りつつ、通りすがりの労働者を慰めて居るのを見たであろう。彼は今、それが最愛の妻と共に、有てる総てを社会主義のために捧げて働いている。予は彼が如何にして食ひ得るかを危ぶむのだ。あゝ、敬虔なる彼れ富士平民の父よ。彼れが今企てつ

高尾平公のその後

東大の潮見教授が岩波新書に書いた治安維持法の盗作問題で辞職した。われわれの間でも、向井孝が先輩たちのためにした誠意と努力が裏切られた例がある。

かく申す私にも不愉快な体験がある。先年作った『永久革命への騎士・高尾平兵衛』を買いにきた作家の西野辰吉が、その後『歴史と人物』に「コミンテルンの日本人機関員」を発表した。所が、引用文献に京大助教授の松尾の「忘れられた革命家・高尾平兵衛」(『思想』)を記し、拙著は無視している。私が水沼熊から聞き書きした満洲行きやシベリヤでの反戦活動のくだりは、明らかに盗用されている。

次に、新泉社から出した『墓標なき革命家』は六〇冊買取りだったので、知己にくばった。秋山清は「高尾という人物は全く知らなかったので興味をもった」と葉書をよくした。そして彼は、大杉栄の何トカ(本屋で立読みしたが忘れた)という本を出した。その中で大杉と高尾の論争をかかけ、尤もらしく解説していた。その資料として前記松尾名だけ記して拙著は黙殺した。この生死生を高尾としたのは私の独断であって、松尾は全くふれていない。(高尾とは断定しがたいと松尾と小松隆二は

る労働者無料休憩所の一日も早く成功せんことを予は祈りて止まぬのである。彼は正直なる基督信者である。彼の歴史は悲惨に満ちている。彼の弟は今横須賀に在って同志の一人である。

彼とは誰ぞ。深尾韶君と予と静岡三人組を作れる渡辺政太郎君其人也。」(明38・4・30)

富士にとどまった渡辺のもとへ東京の孤児育成園から手不足だから援助してほしいとの依頼があり、やがて渡辺夫妻は上京する。明治三十九年、渡辺三四才の時である。

(表紙の2より) (つづく)

本吸う。人影はない。師は煙草や酒はよくないと八平凡の自覚Vで教えているけど今日は特別ですよ、と持参のウイスキーをほんの少し墓石にかけ自分も一口飲む。参詣者現わる。二人で小石を敷いた細道と階段を降り、第二会場へ行った。小さな酒宴で話がはずむ。寂聴尼頼戸内晴美師は出家の動機の一つにトイレットペーパー騒ぎの世相へのプロテストの意味があつたと語る。夢野京太郎こと竹中芳氏と玉川しんめい氏はインデヴグジュアルナーキストでどこが悪いと居直る。私としては愚童のようなソシアルナーキストを考えて欲しいと発言しただけなんだが:

司会は柏木隆法氏。同氏は愚童の研究者で資料発掘の苦勞を語る。A真相を明らかにする会Vからは神崎清、遠藤斌氏等が出席し、市川白弦氏の紹介で出席された女性達は三里塚闘争、毎日新聞の案内をみた学生諸君は自

(11Pへつづく)

つてきた)私の論拠は敢て伏せておく。

このように、有名人の資料名はコケオドカシか勿体づけに記しても、無名人の資料を無断で使うのが、商売人の風習なのだろうか。

ともあれ、高尾が北風会演説会事件のころ、芝浦製作所の人夫をしていたこと。(捕まったとき懐ろにあった原稿の全文もわかっている)高尾が高橋静子を身請けする前、三千円の札束を兄に預けていたこと。関西に行くときと安谷寛一らの神戸ロンダ組に泊ったこと。朴烈らと自殺クラブを作ったこと。

荒畑や中村選一らと釜石鉱山争議を見舞に行つたこと。平公の死後、追悼願が作られたこと。などの新たな事実がわかった。将来、平公を再発掘する人があれば、これらのこともりこんでほしい。但し、無名人でも資料名は明示してくれないければ困る。いや、怒る。(萩原)

『永久革命への騎士』在庫あり。送料とも千円也。(10Pよりつづく)

己の感慨、僧籍の人達は仏教界の現状をこもごも語り有益だった。愚童師67年目にシヤバに引きだされ38才で死んだ温顔に笑みを湛えていたろうか。主催は八黒旗の下にVの白井新平さん。私は8時に退席した。

(文責 はしもと)